

令和4年度豊かなむらづくり全国表彰事業 東海ブロック受賞2地区の概要

農林水産大臣賞	のうじくみあいほうじん 農事組合法人 ひじきファーム（三重県伊賀市）
三重県伊賀市南部の盆地にある比自岐地区は、近年人口減少が一段と進む典型的な過疎地域である。稲作中心の農業が行われているが、高齢化、後継者不足の進展などにより農地の維持や、むらそのものの活力低下が懸念される状況であり、農地・集落を守るため、地域住民によって平成23年「農事組合法人ひじきファーム」が設立された。 当法人は、農地中間管理機構を活用し、積極的に地域の農地の管理、集積・集約化に取り組み、地区の約7割の農地を管理している。近隣地域の経営体と定期的に連絡会を開催し、肥料、農薬などの資材の一括購入、施設・機械の共同利用などで低コスト化を図る取り組みを進めており、広域的な農業の維持発展に貢献している。令和3年度には新規就農者2名を雇用し、後継者育成にも力を入れている。 また、女性理事が中心となり、企業組合「旬菜工房笑み」を設立。組合は、法人が出資した加工施設で地域の農産物を使用した加工品の開発、製造、販売を行っており、女性、高齢者の新たな雇用の場として地域に貢献している。 人・文化・経済的交流として、鳥羽市答志島と「ひじき交流」（山の「比自岐」と海の「ひじき」）を行っており、双方の特産品を活用したコラボ商品を開発し直売所や観光施設などで販売している。 当法人は集落の農地保全や農業の継続・発展に取り組み、さらに交流・6次産業化などによる地域振興や、集落の維持発展にも貢献している。	
東海農政局長賞	とき 時まちづくり活動推進実行委員会（岐阜県大垣市）
岐阜県の南西に位置する大垣市時地区は、約8割が山林で中央に水田、集落が点在している中山間地域で、近年は少子高齢化に伴い人口減少が続いている。平成18年の大垣市への合併を契機にむらづくりを自分たちで行うという機運が高まった結果、地域住民がまとまり、地域資源を活用した取り組みや都市との交流を基本としたむらづくりが始まった。 現在、実行委員会は18団体で構成され、行政、JA、小学校、自治会、住民等と連携しながら、イベント、特産品の開発、移住定住等に取り組んでおり、温泉水（冷泉）を活用したフグの養殖や、地域女性を中心となり地域農産物を活用して商品開発を行った。また地元につながる「長範（ちょうはん）みそ」の味と技術を伝承するため地域の高齢者が生産に携わっており、地元の小学生を対象にみそづくり教室を開催し食育にも貢献している。地域の農業者が中心となり「えぼし朝市」を週3回開催し、地域農産物の販売も行っており、新鮮な農産物を求めて多くの人が訪れる。 また、「時地区移住定住推進委員会」を設立し、空き家の提供、移住後の生活支援相談等地域一体となって取り組んだ結果、平成25年～令和2年までに25世帯56名が旧上石津町地域へ移住した。 地域の資源を活用して地域の高齢者、女性また移住者がさまざまな取り組みを行い、創意工夫を重ねたむらづくりを進めている。	

